

★2つの基本方針

- 1 ラオスの急激な社会変化の中でNGOの役割を再確認する
- 2 ラオス事務所の自立を促進する

- ・ミッション（使命）の確認：ラオスでより機会に恵まれない弱者への教育支援・協力をより意識する
- ・ラオスの人々による市民活動を育てる：理念・意識面、人的要素、経済的要素などにおけるラオス事務所の自立支援

★4つの重点項目

- 1 組織活動の質を高める
- 2 健全な財務体質を構築
- 3 東京・ラオスともに活動の担い手の主体性・専門性を高める
- 4 プロジェクト評価とプロジェクトの方向性の再構築

- ・活動の信頼度を高める
- ・支援者を増やし資金調達力をあげる
- ・活動体制の強化
- ・社会状況の変化に対応する活動根拠の明確化と展望作成

□ プロジェクト

| | 方向性・方針 | 活動 | 達成目標・成果 | |
|-----|-------------------|---|---|--|
| ラオス | 読書推進 | 図書活動の拠点が地域へ広がり、図書利用の機会が増す 学校図書室の整備、各学校の運営能力の強化 読書推進センターの運営の継続、自立化 県教育局、郡教育局、学校、ALC間のネットワークの構築 より困難な状況にある子どもたちへサービスを意識 | 地域の小さな図書室(文庫)の設置を推進し、読書推進活動の拠点を広げる 学校図書室の開設支援とフォローアップを継続 読書推進センター、ブックフェスティバルの実施により、フォローアップを強化 フォローアップシステムの確立 少数民族をはじめ、より支援を必要としている人々を意識し、状況を把握する | 対象16カ所で、文庫が設置されている 新規開設30ヶ所。既設図書室100カ所をフォロー 読書推進センターが5ヶ所以上で活動を継続 教育局からの報告が毎年届く 聞き取りなどの実施 |
| | 出版事業 | 出版システムの確立 多様な本の計画的な出版 事業の自立準備として、出版の事業意識を高める | 著作権の認識を深める 作品選択、編集、内容確認、デザイン、印刷管理等、各プロセスでの能力を高める 質が高い本、ラオスオリジナルの本、子ども達や人々から必要とされる本の出版 少数民族の民話などコンクールを実施し、ラオスオリジナル作品、作者の発掘をおこ 「売れる本」を作り、出版図書の販売数を増やす 海外へ出版図書の紹介をする活動にとりくむ | 研修の機会、勉強会を実施 出版候補作品が常に準備されている状態にする 多様な本を、年6点以上出版 コンクールを年1回実施 図書販売数が年5%増加 3年目に海外での図書の紹介を実現 |
| | 子どもセンター | スタッフ・講師の意欲、能力を高め、子どもの満足度を高める 各センターの運営支援方法を見直す 活動成果やモチベーション向上を狙いとしたイベントを実施 「子どもが楽しむ居場所」「様々な表現活動に触れる場」を維持 | スタッフや講師の研修を実施し、専門性の強化、担い手の育成をおこなう 人件費は各センターが負担するよう促し、徐々に教材実費の支援に切り替える コンテストやイベントを企画し、全国のセンターを対象に実施 イベント実施の際は、ラオス国内の企業などからの支援を得られるようにする 子どもセンターの役割に関する検討を継続 | 研修を3年間で2回以上実施 3年間で人件費支援をゼロにする コンテストやイベントを年2回以上実施 実施経費の70%以上をラオス国内で調達 3年目に検討会議を実施 |
| | ALC図書館 | 地域の図書館としての役割に、遊び場としての要素を加える | 子どもの居場所として、広く活用されるようにする 子ども向けの新たな活動やイベントを積極的に取り入れ、実践する | 利用者数の増加 年間イベント計画に沿って活動されている |
| | 新規プロジェクト 開発・検討 | 現場で必要とされている支援の発掘 | 奨学金事業の実施にむけた準備。財源とのバランスを考慮しながら計画 少数民族へのラオス語教育など、教材作成に関する可能性を探す 教員養成校での活動を模索する | 調査の実施 調査の実施 調査の実施 |
| | 日本 | 訪問/出前活動 | 学校・企業への定期的な訪問/出前活動を継続する | 「開発教育・国際理解」に関する活動資料・教材の内容更新 ラオス語絵本プロジェクトと組み合わせ実施 |
| | スタディーツアー | 定期的な開催 会の活動・ラオス文化の理解を深める | 参加者同士のネットワークが構築される 会の支援者が増加するように内容を整える | 年1回以上実施 合計参加人数50名以上 |
| | ラオス語絵本 プロジェクト | 既存の翻訳の質をあげる 新しい本を追加する | 協力者を探し、翻訳チェックをおこなう 作品検討グループを立ち上げ、作品を選び翻訳を依頼する | リストの50%以上のタイトルの翻訳をチェック 新規作品を10タイトル加える |

□ 組織運営

| | 方向性・方針 | 活動 | 達成目標・成果 | |
|--------|---|---|---|---|
| 運営方針 | 活動の理念、使命の確認、再構成 健全な財務体質を構築する ラオス事務所自立の準備をすすめる | 社会変化にともなうNGO活動根拠の再理論化 経営担当理事あるいはアドバイザーの設定 理念の確立、共有化、人材育成、経済的自立など多様な面から進める | | |
| | 東京 | 組織活動の質をより高める 業務効率の改善 運動意識の共有化 組織活動の一体感を高める | JANICアカウントビリティ・セルフチェック2012を実施 事業報告書の定期的な公開。手順書整備の完了 支援者が20%増加 活動ミーティング・勉強会を合わせて年10回開催 | |
| | ラオス | 活動目的、意義の共有化 業務効率の改善 事務所内での情報共有化をより強める 自立準備 | 東京、ラオス事務所での情報共有の徹底。定期会合の開催 プロジェクトごとの報告書類を完備、各種手順書を整備 ラオス事務所内でスタッフ会議を定例で開催する 理事会設置を検討する | |
| 体制 | 理事会の役割を強化する スタッフの専門能力を育成する | 理事、理事会の役割明確化、担当制の導入と強化 理事の運営関与の拡大 プロ意識の強化 計画的な研修参加 | | |
| | 東京 | ボランティアなど組織を支える人材の育成により体制を強化 勤務しやすい環境を整える | インターン・ボランティア等の役割、責任を明確化。参加度を高める パソコンの整備、スペースの有効活用など、労働環境を整え、労働条件を改善する | インターン等が主体となる業務が増加する 労働環境・勤務条件が改善される |
| | ラオス | 組織管理体制を確立する スタッフの自主性、主体性を育成する ボランティアを育て 読書推進活動の担い手を増やす | 所長、副所長体制の確立。 駐在スタッフによるアドバイス 勤務ルールの整理、文書化 定例会合により共同意識を高め、スタッフの積極的な組織運営、プロジェクト関与を図る イベントなどを通じ読書推進活動のサポーターを増やすよう働き掛ける | 副所長を設置。職務権限の明確化 就業規則の見直し、文書化が完了 各スタッフからの提案が増加する ボランティア、サポーターが増加する |
| 資金調達 | 自己資金調達能力の向上により、財務基盤を強化する | 活動理念を分かりやすく伝える努力により、支援者、寄付者を増やす | | |
| | 東京 | 活動支援の輪を広げる働き掛けを強める | 資金調達担当スタッフ、理事を設定することで資金調達の働き掛けを強める 認定NPO制度のメリットを伝え、支援者からの資金調達額を増やす 提案書・企画書を作成し、より多くの団体、組織に働きかけ、新規ドナーを開拓 織物を中心とした物販を積極的におこない、自己資金額を向上 支援者のニーズにあった新規寄付メニューの開発 | 収入が20%増加する 寄付金額が20%増加する 新規働きかけの増加。新規ドナーの獲得 物販収入が20%増加する 新規寄付メニューを導入 |
| | ラオス | 民間企業、外国政府、国際機関に対し資金調達を働きかける | 団体、組織との連携を促進し、ラオスでの支援者を増やし、資金調達をおこなう 資金調達を意識したイベント、プロジェクトを企画する | 支援者数の増加。新規ドナーの獲得 資金調達額が増加する |
| 広報 | デジタルに対応する広報戦略を確立し、効率化を図る | 紙媒体とデジタル媒体とのバランスを模索する | | |
| | 東京 | 対外的発信活動の質を高める | ホームページのリニューアル 報告方法、表現の再検討などにより 支援者の満足度の向上を図る 会員向けのサービスの充実 紙媒体とデジタル媒体の広報ツールを整理し、更新する | ホームページの改訂が完了 支援者が増加 メンバーリストなどを改善。頻度が増加する 各種広報ツールにより、定期的に発信 |
| | ラオス | 教育事情や活動に関する情報を積極的に地域で発信 | 活動を社会に認知させる広報を強める 英文でのプロジェクト報告書の作成 | 広報の頻度が増加する 英文プロジェクト報告書の公開 |
| ネットワーク | 組織運営、事業展開の効果を高めるため、ネットワークを強化 | | | |
| | 東京 | 各分野の専門家との連携強化 | 理事、顧問、外部アドバイザーとの連携の場を設ける | 事業毎、テーマ別の会合を実施 |
| | ラオス | 政府、教育NGOとの連携を維持する | 他団体などとの連携により、会の優れた活動を広める | 会合への参加 |